

まつばがやつおくやぐらぐん

## 松葉ヶ谷奥やぐら群

(鎌倉市No.451)

調査期間 20090402～20090604

所在地 鎌倉市大町

時代 中世



作成日:20090714

### 概要

本遺跡は、藤沢土木事務所による急傾斜地崩壊対策工事に伴い発見されたもので、安全上の問題から神奈川県教育委員会が工事中に立会い、可能な範囲での記録を作成した結果について、かながわ考古学財団が整理作業を行っているものです。

3号やぐらの玄室からは、多数の五輪塔(ごりんとう)が非常に密集した状態で発見されました。五輪塔は壁面に沿って並べられており、ほぼ崩れることなく埋まっていたことから、当時の状況を良く伝える資料といえます。五輪塔の周辺からは多量の火葬骨(かそうこつ)が出土し、その量からこのやぐらへ埋葬された人は複数であったと推測されます。

出土した五輪塔は梵字(ぼんじ)が刻まれ、金泥(きんでい)でその文字を装飾しているものが多いです。この他にかわらけや瀬戸灰釉瓶子(せとかいゆうへいし)などが出土しています。出土遺物からこのやぐらは鎌倉時代末期から南北朝時代に使用されていたと推測されます。

このやぐらの周辺では他にも2基のやぐらが調査されています。調査では大型の五輪塔や非常に残存状況の良好な板碑(いたび)など特筆すべき遺物が出土しています。また、遺跡は谷戸(やと)の奥地にあたり、非常に見晴らしのよい立地からも本遺跡の重要性が窺われます。



▲五輪塔



▲瀬戸灰釉瓶子